



日本ヘルニア学会・沖縄支部主催

第8回 沖縄ヘルニア研究会 プログラム・抄録集



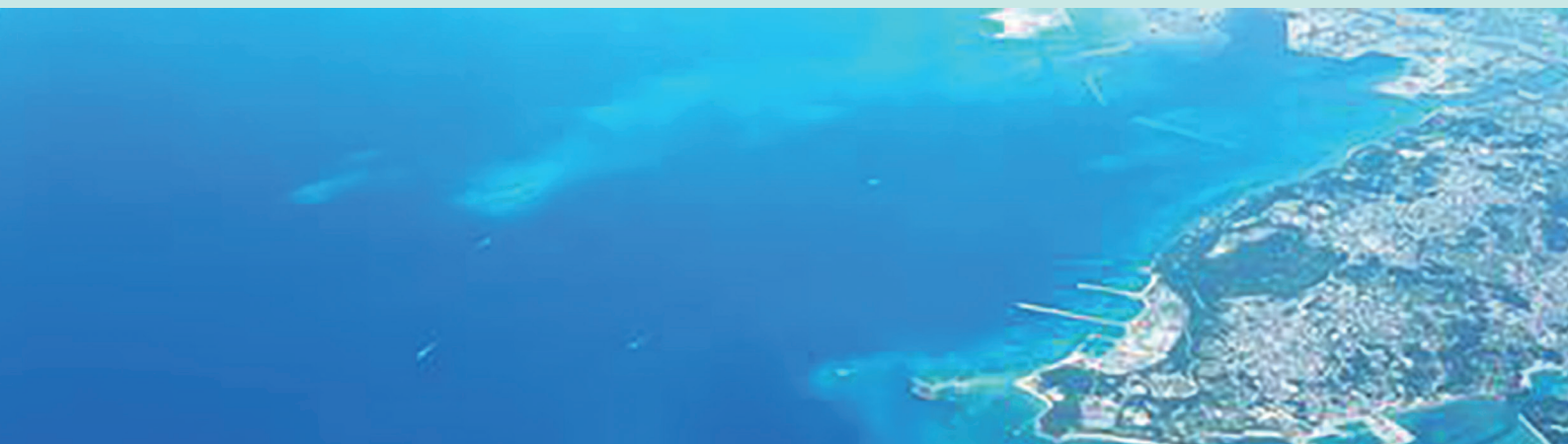
会 期

2021年2月20日(土)
13:30 ▶ 17:30

当番世話人

佐辺直也 (那覇市立病院・小児外科)

WEB 開催



ご参加の皆様へ

WEB開催の事前登録について

ご視聴になるには、以下のURLまたはQRコードから事前登録が必要です。

ご登録後、ウェビナー参加に関する確認メールが届きます。

お手数ですが、手続きのほどよろしくお願いいたします。

https://zoom.us/webinar/WN_AopMq-RYR2mNF0MDntid



第 8 回沖縄ヘルニア研究会の開催にあたって



当番世話人 佐辺 直也（那覇市立病院 小児外科）

那覇市立病院小児外科の佐辺直也です。今回は第 8 回沖縄ヘルニア研究会の当番世話人を拝命し、大変光栄に存じます。

昨年からの新型コロナウイルス感染による、終わりの見えない災禍にあって、皆様方にはご苦労も多いかと拝察しています。コロナ禍で学会や研究会が中止になるなど、会の開催、参加が困難になっています。この度は、当研究会代表世話人の嵩原先生と相談し、沖縄県のヘルニア研究の火を消さないためにも、皆さんが安心して参加できるように、「第 8 回 沖縄ヘルニア研究会」を web で開催することと致しました。初めての試みであり、web 開催の準備を行って下さった嵩原先生には大変感謝しております。

ウェビナー開催するにあたり、これまでの研究会は遠方のため、参加できなかった先生方もいらっしゃるかと思います。今回は多くの先生方にご参加頂けるような会になればと思います。

今回の研究会では、私が当番世話人に拝命されたこともあり、沖縄県の小児鼠径ヘルニア治療の現状を確認するべくアンケートを行い、その結果をまとめてご報告させて頂きたいと思います。

特別講演は嵩原先生にご紹介いただき Inguinodynia と題し京都医療センター外科の成田匡大先生にお話しいただくこととなっております。勉強不足で意味を調べたところ鼠径部痛とのことで、皆様も術前、術後の鼠径部痛をご経験されていると思われますので大変興味深い御講演となると思います。

一般演題は例年通り鼠径ヘルニア、大腿ヘルニア、閉鎖孔ヘルニア、腹壁瘢痕ヘルニアや、特殊なヘルニアなどの経験など幅広く募集させて頂きました。各施設の豊富な経験と様々な工夫を持ち寄り、また治療に難渋されている症例を共有し、日々の診療に還元できる有意義な研究会になることを期待しています。皆様、多数のご参加をお待ちしております。

プログラム

開会挨拶 13:30

当番世話人 佐辺 直也（那覇市立病院 小児外科）

【一般演題】13:40～15:00

座 長 西原 実（ハートライフ病院 外科）

1. 治療に難渋した巨大腹壁癒痕ヘルニアの1例

〈浦添総合病院 消化器センター 外科〉

山城直嗣、新垣淳也、堀 義城、佐村博範、古波倉史子、長嶺義哲

2. 剣状突起下腹壁癒痕ヘルニアに対して IPOM-Plus を施行した1例

〈中頭病院 外科〉

辺土名克彦、林 圭吾、石川巧朗、照屋妹奈、深見朋世、林裕樹、小倉加奈子、間山泰晃、
卸川智文、大森敬太、砂川宏樹

3. 回盲部、胃、大網が嵌頓した腹壁癒痕ヘルニアの1例

〈¹⁾ 新潟県厚生連 糸魚川総合病院 外科〉

〈²⁾ 富山大学 学術研究部医学系 消化器・腫瘍・総合外科〉

田澤賢一¹⁾、東海竜太郎¹⁾、山崎豪孔¹⁾、澤田成朗¹⁾、山岸文範¹⁾、藤井 努²⁾

4. eTEP-TAR を用いた腹壁ヘルニア修復術の手術手技と成績

〈手稲溪仁会病院 外科〉

今村清隆、高田 実、黒滝拓磨、佐藤 綾、塚越隼爾、西原聖仁、佐々木啓太、市丸千聖、
鈴木悠介、萩原詢哉、七里圭子、藤井正和、千葉龍平、石井 生、櫛谷洋樹、梅本一史、
古川聖太郎、岡田尚也、久保田玲子、阿部 大、山吹 匠、加藤健太郎、加藤弘明、
木ノ下義宏、安保義恭、中村文隆、成田吉明

5. 小児ヘルニアに対してエンドクローズを用いた LPEC 法の導入経験

〈製鉄記念室蘭病院 外科〉

サシム・パウデル、武藤 潤、岡崎 遼、羽根佑真、齋藤崇宏、東海林安人、長谷龍之介、
仙丸直人

6. Scrotal hernia に対する腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術

〈中頭病院 外科〉

林 圭吾、照屋妹奈、深見朋世、石川巧朗、辺土名克彦、小倉加奈子、卸川智文、大森敬太、
砂川宏樹

7. 鼠径ヘルニア術後の単径部痛に難渋した1例

〈戸畑共立病院 ヘルニア外科〉

松村 勝

8. 敢えて開けた“パンドラの箱”から見えたもの

〈沖縄ハートライフ病院・ヘルニアセンター、同外科〉

嵩原裕夫、西原 実、国吉史雄、宮平 工、花城直治、阿嘉裕之、比嘉宇郎、仲本正哉、
藤川秀爾、奥島憲彦

【基調講演】 15 : 00 ～ 15 : 45

司会 金城 僚（沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 小児外科）

演者：佐辺 直也（那覇市立病院 小児外科）

演題：「沖縄県の小児鼠径ヘルニア治療の現状 – アンケート調査から –」

～質疑応答～（15 分）

【特別講演】 16 : 00 ～ 17 : 00

司会 嵩原 裕夫（ハートライフ病院 ヘルニアセンター）

演者：成田 匡大（京都医療センター 外科）

演題：「Inguinodynia」

～質疑応答～（15 分）

代表世話人挨拶 17 : 15

嵩原 裕夫（ハートライフ病院 ヘルニアセンター）

閉会挨拶 17 : 20

当番世話人 佐辺 直也（那覇市立病院 小児外科）

1. 治療に難渋した巨大腹壁癒痕ヘルニアの 1 例

浦添総合病院 消化器センター／外科

山城直嗣、新垣淳也、堀 義城、佐村博範、古波倉史子、長嶺義哲

症例は 77 歳女性。35 年前に虫垂穿孔・腹膜炎に対する開腹手術歴あり。約 20 年前に腹壁癒痕ヘルニアに対し修復術が行われているが、その後短期間で再発。以後、腹壁癒痕ヘルニアに対する治療や開腹手術は行っていない。

2000 年 3 月右側腹部巨大腹壁癒痕ヘルニア・術後癒着性イレウスの診断で入院。1 週間の保存治療で軽快退院となったが、退院 10 日後にイレウス再燃し、再入院となった。

肥満症 (BMI:30.0) + 複数の手術歴 + 2 型糖尿病あり、手術はなるべく避けたいところだが、短期間で再発するため手術治療を行った。メッシュは VENTRA-LIGHTTM ST (20.3cm × 25.4cm) を選択し、onlay に留置した。

術後、皮下スペースに灰白色の排液が溜まり、約 4 か月間外来でドレナージ治療 (抗生剤投与なし) を要した。腹壁癒痕ヘルニア手術は、当然第一は再発させないことが重要であるが、巨大な腹壁癒痕ヘルニア治療の際は、術後の漿液腫やメッシュ感染、腸管癒着などの合併症にも配慮すべきである。

2. 剣状突起下腹壁癒痕ヘルニアに対して IPOM-Plus を施行した 1 例

社会医療法人敬愛会 中頭病院／外科

辺土名克彦 林 圭吾、石川巧朗、照屋妹奈、深見朋世、林 裕樹、小倉加奈子、間山泰晃、卸川智文、大森敬太、砂川宏樹

【はじめに】 剣状突起下腹壁癒痕ヘルニアの発生頻度は、2.0 ~ 10.5% と報告されているが本邦での報告は少ない。今回我々は、開腹胆摘後の剣状突起下のヘルニアを経験した。

【症例】 85 歳、女性。右季肋部切開による胆摘後 1 年から心窩部に膨瘤を認めた。M1W2 の剣状突起下ヘルニアの診断で腹腔鏡下腹壁癒痕ヘルニア修復術 (IPOM-plus) を行った。

【手術所見】 全身麻酔、仰臥位、3 ポートで手術開始した。ヘルニア門の計測を行い、ヘルニア門を腹腔内から非吸収性有棘糸で連続縫合した。メッシュは肋弓より尾側は Double crown 法でタッキングを行い、横隔膜下は非吸収糸で縫合固定した。transfascial suture を数カ所置いた。

【術後経過】 術後疼痛コントロールも良好で、特に問題なく術後 4 日目で退院となり漿液腫などの合併症も認めていない。

【まとめ】 剣状突起下ヘルニアに対して IPOM-Plus を施行した症例を経験した。タッカーによる固定が困難な部位においては、縫合により十分な固定を行うことで、十分なメッシュ展開ができると思われた。若干の文献的考察を行い報告する。

3. 回盲部、胃、大網が嵌頓した腹壁癒痕ヘルニアの 1 例

1) 新潟県厚生連 糸魚川総合病院／外科

2) 富山大学 学術研究部医学系／消化器・腫瘍・総合外科

田澤賢一¹⁾、東海竜太郎¹⁾、山崎豪孔¹⁾、澤田成朗¹⁾、山岸文範¹⁾、藤井 努²⁾

症例は 73 歳女性、虫垂炎術後の創部直下の疼痛を伴う右下腹部の膨隆を認め、当院 ER 受診、用手的還納は不能であった。精査の結果、虫垂炎術後の創部の腹壁癒痕ヘルニア嵌頓（嵌頓臓器：回盲部、胃）の診断で、全身麻酔下に開腹手術を行った。手術所見では、右傍腹直筋切開でアプローチ、ヘルニア門から回盲部、胃、大網の逸脱を認めた。臓器虚血はなく、嵌頓臓器を整復、ヘルニア門の一次縫合術を行い、手術を終了した。術後経過は良好で、術後半年で再発の兆候を認めない。腹壁癒痕ヘルニアの臓器嵌頓は稀で、複数臓器の同時嵌頓はさらに稀である。今回、回盲部の後腹膜固定不良、同部の大網癒着による胃壁牽引により、複数臓器の嵌頓をきたしたと推測された。解剖学的特性と術後の癒着を背景に複数臓器の嵌頓をきたす症例も念頭に置き、手術を行うことが重要である。

4. eTEP-TAR を用いた腹壁ヘルニア修復術の手術手技と成績

手稲溪仁会病院／外科

今村清隆、高田 実、黒滝拓磨、佐藤 綾、塚越隼爾、西原聖仁、佐々木啓太、市丸千聖、鈴木悠介、萩原詢哉、七里圭子、藤井正和、千葉龍平、石井 生、櫛谷洋樹、梅本一史、古川聖太郎、岡田尚也、久保田玲子、阿部 大、山吹 匠、加藤健太郎、加藤弘明、木ノ下義宏、安保義恭、中村文隆、成田吉明

2019 年の IEHS ガイドラインで横径 10cm を超えるヘルニアや、側腹部のヘルニアに対して TAR が有効とある。さらに eTEP アプローチと組み合わせることで、高度肥満症例でも合併症を減らすことが可能である。当科では 2018 年 11 月から 2 年間で eTEP-TAR を 25 例に対して行った。同時期に行った開腹での TAR は open abdominal management 後の植皮後の 1 例のみである。eTEP-TAR を行った患者は、平均年齢 68.4 歳、BMI 27.7kg/m²、ヘルニア門横径 8.0 ± 3.7cm、メッシュサイズ 756 ± 338cm² で、手術時間、出血量、入院期間は、それぞれ 355 ± 122 分、25 ± 58ml、7.6 ± 4.0 日であった。術中に開腹移行を要したのは、嵌頓例でヘルニア嚢と腸管の癒着が強かった 1 例のみで、術後に血腫感染を合併し抗生剤による加療を要した。また初回の eTEP-TAR で抜管時の怒責に伴う前鞘離開を認め皮膚小切開し再縫合を要した。他にはこれまでヘルニア再発やメッシュ感染、慢性疼痛、漿液腫などの合併症を認めていない。導入初期と嵌頓例には注意が必要であるが有用な術式と考えられた。

〈MEMO〉

5. 小児ヘルニアに対してエンドクローズを用いた LPEC 法の導入経験

製鉄記念室蘭病院／外科

サシム・パウデル、武藤 潤、岡崎 遼、羽根佑真、齋藤崇宏、東海林安人、長谷龍之介、仙丸直人

背 景

本邦では小児ヘルニアに対して嵩原らが発案した腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術（LPEC 法）が多くの施設で安全に導入されている。LPEC 法は専用の LPEC 針を用いて、小児外科医が行うのは一般的であるが、当院ではエンドクローズを用いて LPEC 法を導入したのでその経験と初期成績を報告する。

方 法

導入初期は術者を腹腔鏡下鼠径ヘルニアで技術認定を取得した 1 名に固定して、LPEC 法に経験ある指導医の指導の下で行った。LPEC 法はヘルニア門の直上から 1 号 Prolene を把持したエンドクローズを挿入して、内側からヘルニア嚢を回って閉鎖を行っている。I-2 型 Denovo Type に対しては 2 重結紮を行う方針とした。

結 果

2020 年 8 月～12 月まで 5 例 6 病変に対して LPEC 法を施行した。年齢の中央値は 4 歳（1～15 歳）。10 代の 2 名が I-2 の Denovo Type その他は I-1 型だった。手術時間の中央値は 30 分（20～41 分）で、術中、術後合併症は認めなかった。

結 語

経験ある指導者の下で、腹腔鏡操作に慣れている一般外科医によるエンドクローズを用いた LPEC 法は、安全に導入が可能だった。

6. Scrotal hernia に対する腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術

社会医療法人敬愛会 中頭病院／外科

林 圭吾、照屋妹奈、深見朋世、石川巧朗、辺土名克彦、小倉加奈子、卸川智文、大森敬太、砂川宏樹

【はじめに】当院では腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術（以下 TAPP）においては、陰嚢内に達するヘルニア（Scrotal hernia）は当初から適応外としてきた。症例の蓄積に伴い安全に施行可能であると考え、2019 年 4 月より TAPP の適応とした。非還納性のものは現在のところ適応外としている。当院で経験した症例について後方視的に検討したので報告する。

【対象】2019 年 4 月から 2020 年 12 月までの期間に TAPP を施行した 10 症例を対象に検討した。

【手術手技】3 ポートで開始し、内鼠径輪の環状切開を外側から行う。内側腹膜が癒着化している症例が多く、内側臍ヒダから腹膜に切開を加え、挟み撃ちするように腹膜を環状切開する。この際、ヘルニア門に沿うと、腹膜閉鎖に使用する腹膜が足りなくなってしまうため、ややヘルニアサックに切り込むように切開している。剥離を行ったのちメッシュを挿入、固定する。

【結果】年齢中央値は 68.5 歳（35-85 歳）、全例男性。右 3 例、左 3 例、両側 4 例。手術時間中央値は片側 136.5 分（73-209 分）、両側 234 分（185-242 分）。術後在院日数中央値は 2 日（1-3 日）。術後合併症は 1 例で鼠径部の違和感を認めたが、漿液腫は認めていない。

【考察】陰嚢型ヘルニアに対する TAPP では手術時間は術者による差はあるものの長い傾向にあった。しかし疼痛や漿液腫は認めず、良好な結果であった。

8. 敢えて開けた“パンドラの箱”から見たもの

沖縄ハートライフ病院／ヘルニアセンター、同外科

髙原裕夫、西原 実、国吉史雄、宮平 工、花城直治、阿嘉裕之、比嘉宇郎、仲本正哉、藤川秀爾、奥島憲彦

「はじめに」“Advanced LPEC 法”とは、LPEC 法に Iliopubic tract repair を付加した術式である。鼠径床を剥離せず、メッシュを使用しないのは利点であるが、腹横筋腱膜弓と IP tract の間に U-shape stitch を行う手技において陰部大腿神経の陰部枝を損傷するリスクが懸念され推奨しがたい術式として指摘されてきた。しかし、50 例（51 病変）に対する“Advanced LPEC 法”を行った自験例では如何なる inguinodynia や再発例も経験していない。

「目的と対象」術中に後腹膜神経を同定すべく腹膜剥離後に疎性結合組織を剥離することは禁忌とされ、まさに“パンドラの箱”である。TAPP を施行した 32 例において Indigo carmine を混じた膨潤液を後腹膜に注入し後腹膜神経の走行を検索した。

「結果」精巣血管の背側で IPT の前面を鼠径管内へ走行する陰部枝が確認できたのは 6 例であった。IPT の背面を走行する大腿枝が 15 例、および外側大腿皮神経と思われる神経が確認できたのは 11 例であった。後腹膜神経の走行の確認操作において新たに得られた知見は横筋筋膜 sling（下脚）と IPT の解剖学的位置関係であった。両者は横筋筋膜に由来する索状組織とする説もあるが、その索状構造や並走（？）する両者の位置には個体差が見られた。これまで腹膜を介して IPT と確信し処理した症例も少なくないが、あるいは横筋筋膜 sling の下脚を IPT と誤認していた可能性も否定できない。

「考案」多くの解剖書では、いわゆる Trapezoid of disaster 領域を走行する後腹膜神経にはバリエーションが見られるものの、陰部大腿神経の陰部枝は内鼠径輪の内側を精巣動脈の背側で IPT の前面から鼠径管内へ走行し、大腿枝と外側大腿皮神経はその外側を IPT の背面を走行すると記されている。51 病変に“Advanced LPEC 法”を行い術後に“Inguinodynia”を経験しなかったのは横筋筋膜 sling の下脚と IPT との誤認が幸いした結果かもしれない。さらに、IPT に U-shape stitch をかけた症例も陰部枝が並走する精巣血管から離れた部位であり、これまで指摘されてきた陰部枝損傷のリスクは決して高いとは思われない。大腿枝と外側大腿皮神経に関しては IPT の運針は浅めに、主として横筋筋膜 sling の下脚に逢着してきたことが meralgia paresthetica などのような神経障害を合併しなかったことが考えられる。

「まとめ」従来の“Advanced LPEC 法”は、LPEC 法に腹横筋腱膜弓と IP tract の縫合を併せておこなうことを意図してきたが、最近の知見から LPEC 法に腹横筋腱膜弓と横筋筋膜群（sling 下脚 + IP tract）の縫合を併せて行う術式とするのが適切と考えている。LPEC 法術後に再発する de novo type hernia も横筋筋膜群（sling 下脚 + IP tract）への縫合で腹膜の滑脱を予防できると考えている。

さらに症例を重ね、低侵襲性とされる TAPP や TEP と異なり Bogros 腔や Retzius 腔を広く剥離する必要がなく、メッシュも必要としない“Advanced LPEC 法”が JHS 分類 I -2 型以上の症例に対しても年齢、ヘルニア門のサイズと横筋筋膜群の形態によっては有用な術式であることを実証したい。

〈MEMO〉

沖縄県の小児鼠径ヘルニア治療の現状 -アンケート調査から-

演 者：佐辺 直也（那覇市立病院 小児外科）
司 会：金城 僚（沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 小児外科）

【目的と方法】

沖縄県における小児鼠径ヘルニア治療の現状を把握するため、県内 24 の主要外科施設を対象に、2016 年から 2020 年までの 5 年間 15 歳以下の小児鼠径ヘルニア手術に関して年齢別のアンケートを行いました。

【結 果】

23 施設から回答を得、11 施設で小児鼠径ヘルニア手術が行われていました。小児鼠径ヘルニアの年間手術件数は 2016 年から順に 292、269、272、260、182 件でした。そのうち小児外科医が術者、指導助手として関与した施設は 5 施設で手術は 245 (84%)、218 (81%)、242 (89%)、224 (86%)、149 件 (82%) でした。その中で LPEC 手術は 91 (31%)、107 (40%)、138 (51%)、142 (54%)、93 件 (51%) と年々増加傾向を認めました。成人外科医により小児鼠径ヘルニア手術を施行している施設のうち 4 施設は小児外科医の不在な北部地区や離島でした。

〈MEMO〉

特別講演

Inguinodynia

演 者：成田 匡大（京都医療センター 外科医長）
司 会：嵩原 裕夫（ハートライフ病院 ヘルニアセンター）

鼠径ヘルニア術後の最も忌むべき晩期合併症は鼠径ヘルニア術後慢性疼痛（CPIP）である。CPIP は Inguinodynia と呼ばれ、海外のガイドラインでは「術後3ヶ月以上持続する中等度以上の日常生活に支障を来す疼痛」と定義されている。海外における発症頻度は報告により様々だが、～15%と報告されている。本邦における発症頻度は不明であり、現在多施設前向き観察研究を実施している。CPIPの原因と治療に関して、自験例を中心に文献的考察も交えて発表する。

演者プロフィール

成田 匡大（なりた まさとお）

生年月日 1975年2月12日
勤務先 京都医療センター外科
役 職 京都医療センター 外科 医長
京都大学 肝胆膵移植外科 臨床准教授
専門分野 肝胆膵外科・鼠径ヘルニア術後慢性疼痛

【学歴】

1999年3月 大阪医科大学医学部卒業
2005年4月 京都大学医学部大学院入学（博士課程）
2009年3月 同上卒業

【職歴】

1999年5月-2001年3月 大阪医科大学 一般消化器外科 研修医
2001年4月-2004年3月 神鋼病院 外科 後期研修医
2004年4月-2005年3月 神鋼病院 外科 医師
2009年4月-2009年5月 京都大学医学部附属病院 肝胆膵移植外科 医員
2009年5月-2011年2月 フランス・ストラスブール大学 オートピエール病院 外科研修医
Hôpital de Haute-pierre, Hôpitaux Universitaires de Strasbourg
Chirurgie Générale, Hépatique, Endocrinienne et Transplantation Interne en Chirurgie
2011年3月-2011年4月 フランス・ストラスブール大学 オートピエール病院 客員教授
Hôpital de Haute-pierre, Hôpitaux Universitaires de Strasbourg
Chirurgie Générale, Hépatique, Endocrinienne et Transplantation Professeur invité
2011年5月-2012年2月 京都大学医学部附属病院 肝胆膵移植外科 医員
2012年3月-2020年10月 京都医療センター外科 医師
2020年11月-現在 京都医療センター外科 医長

【資格】

1999年5月 医師免許証
2003年12月 日本外科学会 外科認定医
2006年12月 日本外科学会 外科専門医
2008年12月 日本消化器病学会 専門医
2010年2月 Diplôme Inter Universitaire European Cancers
Hepato-Bilio-Pancreatiques: OncoSurgical Strategies
2012年1月 日本消化器外科学会 消化器外科専門医・消化器病がん外科治療認定医
2014年1月 日本外科学会 外科指導医
2015年6月 日本肝胆膵外科学会 高度技能専門医
2016年6月 日本消化器外科学会 消化器外科指導医

【所属学会・役職】

日本外科学会	日本消化器外科学会
日本肝胆膵外科学会（評議員）	日本臨床外科学会
日本消化器病学会	フランス外科学会
膵臓学会	胆道学会
ヘルニア学会（評議員）	関西ヘルニア研究会世話人
日本LPEC研究会顧問	ヨーロッパヘルニア学会
日本ペインクリニック学会	

【賞与】

2013年3月21日 第5回 Journal of Gastroenterology High Citation Award
[Expression of OATP1B3 determines uptake of Gd-EOB-DTPA in hepatocellular carcinoma]

会 則

第1条 名 称

本会は、日本ヘルニア学会沖縄支部「沖縄ヘルニア研究会」と称する。

第2条 目 的

本会は、沖縄県における腹部ヘルニアの医療技術・学問的研究等の向上をめざし、よりハイクォリティなヘルニア医療を広く県民に提供して県の医療福祉に寄与することを目的とする。また、会員相互の情報交換、連携と親睦を図ることを目的とする。

第3条 事 業

本会は、目的を達成するために次の事業を行う。

原則として年1回以上の学術集会（研究発表会・講演会等）を開催する。

その他、本会の発展に必要な事業を行う。

第4条 会 員

1. 本会を構成する会員は、第2条の目的に賛同する医師・その他の医療従事者や研究者とし、会員または賛助会員とする。
2. 会員は、本会事務局へ入会の手続きをとり、学術集会等の開催案内をうけることができる。

第5条（役員および任期）

1. 本会に次の役員をおく。

代表世話人 名

世話人 若干名

会計 1名

監事 1名

2. 世話人会は、役員をもって構成し、会の運営を議し執行する。役員および世話人の選出は世話人会の了承を得て行われる。任期は2年とし、再任を妨げない。
3. 代表世話人は、世話人会により定められ本会を代表する。
代表世話人は、会務を総括し、年1回以上の世話人会を開催する。任期は2年とし、再任を妨げない。
4. 当番世話人は、世話人の中から選出され研究会の開催、運営をおこなう。
5. 会計担当は、専任の事務職員をあてる。
6. 役員は、日本ヘルニア学会会員とする（但し、会計係を除く）。

第6条 事 務 局

本会の事務局は、当分のあいだ「社会医療法人かりゆし会ハートライフ病院外科」に置く。

〒901-2492 沖縄県中頭郡中城村字伊集 208

TEL：098-895-3255 FAX：098-895-5685

第7条 顧問、名誉会員

世話人会の推挙により顧問、名誉会員をおくことができる。

顧問は、本会の運営活動に対し実質的な参加が困難な指導的立場にあるものを推挙する。

名誉会員は、本会の維持、発展に貢献のあった世話人を推挙する。

第8条 会 費

1. 会費（1,000円）は、会の開催時に年会費（参加費を含む）として徴収し、一部を特別講師の謝礼等にあてる。
2. 賛助会員は、年会費として一口50,000円以上納入する。

第9条 会 計

本会の会計年度は、1月1日より12月31日とする。

本会の収支決算は、事務局長が会計年度ごとに行い監事の監査を受け世話人会で承認を得る。

第10条 会則変更等

会則の変更ならびに定められていない事項は、世話人会で討議し決定する。

第11条 細 則

1. 本会の運営は、日本ヘルニア学会沖縄支部「沖縄ヘルニア研究会」が主催する。
2. 学術集会は、研究発表会（春季）、Surgical Forum（秋季）とする。
3. 研究発表会（春季）の開催に当たり、当番世話人（日本ヘルニア学会会員）は 次の業務を賛助会員に協力を要請することができる。
 - ・研究会開催に必要な労務、・プログラムの作成と会員への案内、
 - ・事務局代行業務、・その他
4. Surgical Forum（秋季）は、事務局が企画し、当番世話人（沖縄ヘルニア研究会世話人）に委託する。委託された当番世話人は、会場の設営、当日の会の運営を行う。
5. 賛助会員は、本会の開催に当たり広告・器械展示等を持って会の運営に協力するものとする。

6. 事務局業務従事者に対し、下記の謝礼を支払う。

会計係：¥30,000（年間）

事務係：¥20,000（年間）

附則：

- ・ 本会則は、平成25年11月1日より実施する。
- ・ 平成25年11月1日に 第8条会費の条項を改定した。
- ・ 平成27年1月18日に第8条会費の1項を、会費（2,000円）を会費（1,000円）に改定した。
- ・ 令和2年2月22日に第5条の5項、6項を改定した。
 - 5項 会計係に専任者を置くことにした。
 - 6項 会計係は日本ヘルニア学会非会員の役員とした。
- ・ 令和2年2月22日に第11条の細則を以下のように追加および改定した。
 - 2. 学術集会は、研究発表会（春季）、Surgical Forum（秋季）とする。
 - 3. 研究発表会（春季）の開催に当たり、当番世話人（日本ヘルニア学会会員）は 次の業務を賛助会員に協力を要請することができる。
 - ・ 研究会開催に必要な労務、・ プログラムの作成と会員への案内、
 - ・ 事務局代行業務、・ その他
 - 4. Surgical Forum（秋季）は、事務局が企画し、当番世話人（沖縄ヘルニア研究会世話人）に委託する。委託された当番世話人は、会場の設営、当日の会の運営を行う。
- 6. 事務局業務従事者に対し、下記の謝礼を支払う。
 - 会計係：¥30,000（年間）
 - 事務係：¥20,000（年間）

役 員 名 簿

代表世話人	嵩原裕夫	社会医療法人かりゆし会	ハートライフ病院
世話人 (50 音順)	新垣淳也	社会医療法人仁愛会	浦添総合病院
	稲嶺 進	医療法人おもと会	大浜第一病院
	奥濱幸博	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター	
	小倉加奈子	社会医療法人敬愛会	中頭病院
	卸川智文	社会医療法人敬愛会	中頭病院
	兼城隆雄	医療法人沖縄徳洲会	南部徳洲会病院
	川上浩司	沖縄医療生活協同組合	沖縄協同病院
	国吉史雄	社会医療法人かりゆし会	ハートライフ病院
	佐辺直也	地方独立行政法人	那覇市立病院
	友利健彦	日本赤十字社	沖縄赤十字病院
	仲地 厚	社会医療法人友愛会	友愛医療センター
	西原 実	社会医療法人かりゆし会	ハートライフ病院
	福里吉充	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター	
会計 (専任)	比嘉須奈子	ハートライフ病院	メディカルクラーク
監事	友利寛文	地方独立行政法人	那覇市立病院
顧問	奥島憲彦	社会医療法人かりゆし会	ハートライフ病院

〈MEMO〉

Blank lined area for writing.

〈MEMO〉

〈MEMO〉

